

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

皆様の本年のご多幸を心よりお祈りしております。

本号3ページに、弊社主催のセミナーの案内を掲載しています。ぜひご覧下さい。

# BFSニュースレター

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

2012年1月5日発行

Vo1. 32, 第32号

## このニュースレターの主な掲載情報:

- グローバルな政治・経済、マーケットの最新情報や分析見通し
- BFSのサービス、実際のトピックス、ケーススタディ
- 資産運用や人生設計に役立つ情報
- 知っておくと得するホットな情報

## 日本企業が見習うべき株主還元の姿勢

インテルは、だれもが知っている半導体最大手の米国企業です。この会社の最近の株主還元姿勢を見ますと、いかにそれによって、株価や配当金がよい影響を受けるかが、わかります。なお、予めお断りしておきますが、ここで、この銘柄への投資をお勧めしているわけではありません。

インテルは、2011年第3四半期(7~9月)に+24%の純利益増益を達成しました。これだけでも大変いい業績ですが、実は、株価に直接影響を与える1株利益は+33%の増加になっているのです。

配当還元は厚く、第3四半期に11億ドルを配当し、配当利回り3.6%の十分な還元をしています。それでも32%の配当性向で、支払いには十分余裕があります。特筆すべきは、同時期に配当金の4倍近い40億ドルの自社株買いを行い、1億8600万株を消却しています。第3四半期の純利益は37億ドルですから、それを上回る配当・自社株買い(51億ドル)を行っているのです。

さらに、なんと50億ドルを借り入れ、残存する40億ドルの自社株買い枠と合わせて140億ドル(円高でも1兆800億円!)の自社株買いを発表しました。これにより、発行株数をさらに11%減少させることとなります。

これは、2012年に純利益は+5~10%増益にとどまるのが予想されても、1株利益は15~20%増加というすばらしい結果をもたらし、株価を上げる効果があるということを示しています。

純利益を上回る株主還元、あるいは借入れしてまで自社株買いをする背景には、先行きの業績への自信、株主還元への強い姿勢があります。これが企業に規律をもたらし、無駄な投資をせずに会社の業績をよくする好循環につながるのです。

このように、株主還元姿勢を重視する企業の配当金は毎年増え、業績がいいから株価も上がり、株主は安心して持っています。インテルの2011年株価は、ニューヨークダウの上げ幅5.5%を大幅に上回る15.3%上昇です。

ところが、日本の企業は、公募増資を大量に行い、20%も30%も発行済み株式を増やし、既存株主の持分を大きく引き下げても平気な会社があります。こういう会社の根っこには、企業統治(コーポレート・ガバナンス)という面での欠如(いわゆる自己保身、株主軽視がまかり通る)が見られ、オリンパスや東京電力、ほんの3~4年で10分の1になった野村、みずほなども、同様のことが言えるでしょう。このように彼我の違いをみますと、如何に配当・自社株買いの株主還元や企業統治(コーポレート・ガバナンス)が大事かがわかります。

私ども、びとうファイナンシャルサービスは、外国のグローバル企業で、このように優れた企業統治、株主重視姿勢をもつ会社を、お客様にたくさんおすすめしています。そのため、配当金は着々と増え、自社株買いも推し進める企業が、ほとんどすべてです。



こうすることにより、証券会社や銀行で取引をしている一般の個人に比べると、大変安定した運用になっています。このような姿勢は今後も堅持し、みなさまに安心して過ごしていただけるように努めてまいります。

## 2011年のNYダウ上昇は、4銘柄のおかげ

ニューヨークダウは、昨年、先進国株価指数の中で+5.5%と唯一の上昇となっていますが、同じニューヨーク市場のS&P500指数は-0.003%でほぼ横ばいです。2つの主要株価指数の間で、ここまで差が出るのは、どうしてでしょう。

実は、ニューヨークダウは、日経平均225と同じく、30社の構成銘柄株価の単純平均で算出されますが、S&P500株価指数は、東証株価指数と同じ時価総額加重平均です。そのため、ニューヨークダウは、高株価銘柄の株価変動の影響が、S&P500指数は、時価総額の大きい銘柄の影響が大きくなるのです。

2011年のニューヨークダウは640ポイント上昇していますが、その上昇は4銘柄の株価上昇ですべて説明できてしまいます。ダウ算出は、30社の株価の上昇幅(ドル)を除数(0.13129493)で割っているだけです。

ニューヨークダウ	+640.05	
IBM株価	146.76→183.88	282.72
マクドナルド	76.76→100.33	179.52
シェブロン	91.25→106.40	115.39
エクソン	73.12→84.76	88.65
		計666.28



IBMの株価は、10ドル台の銘柄の株価に比べて8倍、9倍も指数への影響度が大きくなります。世界が注目する代表的な株価指数ですが、意外と仕組みはシンプルで、ちょっと取扱いには注意が必要のようです。

## 今月の言葉:

-健康をよくするのも、事業をよくするのも、常に、世のために、自分と同じ幸福を手広く分けてあげようというつもりになることだ。

中村天風-運命を拓く



弊社から皆様への情報提供ソース:

びとうファイナンシャルサービス公式ホームページ

<http://www.bfsc.jp>

びとうファイナンシャルサービス公式ブログ

<http://ameblo.jp/bitofinancialservice/>

毎週3分で、資産運用の成功へ導くメルマガ!

申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

書評ブログ-平日毎日更新

<http://blog.goo.ne.jp/dreamct-1>

Web サイトもご覧ください  
<http://www.bfsc.jp>

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

代表取締役 尾藤 峰男

〒105-0022

東京都港区海岸1-2-20

汐留ビルディング3階

電話: 03-6721-8386

携帯: 090-4934-3121

FAX: 050-3156-1072

電子メール: info@bfsc.jp

お客様の人生に豊かさを、心に安心とゆとりを  
-びとうファイナンシャルサービスの大切な役割

## テーマ買いは、高値づかみの元

テーマ買いとは、たとえば「高齢化社会で、これからは介護関連が伸びる」「地球温暖化で、これからは風力、太陽熱、電気自動車」「新興国の人口爆発で、食糧危機が来る」というように、世の中で騒がしく取り上げられている時に、その関連の株式に投資することです。

この「世の中で取り上げられている時」というところが、問題を含んでいます。というのは、そういう時は、見出しやニュースでよく取り上げられるわけですから、理想買いにしる、実際に市況が高騰しているにしる、その関連の株式がすでに上がっていることが多いからです。

理想買いとは、実際には収益を伴っていないが、将来の成長性を買って投資するというパターンです。業績は赤字だが、将来黒字になるだろうと踏んで、この長期テーマで有力と目される企業に投資するのは、そのいい例が、米国電気自動車のテスラ・モーターズ。2010年6月に上場したのですが、まだ赤字拡大中です。株価は、値を保っています。いつドスンと来るか、わかりません。

また、収益が上がっていても、テーマの将来性から高く買い上げられることもあります。こちらの例は、同じく米国太陽熱(ソーラー)エネルギーのファースト・ソーラーやソリンドラ。ファースト・ソーラーは2011年2月、175ドルをつけたのが、中国企業の安値販売による競争激化や政府補助金の期限切れで業績が悪化し、12月株価は30ドルに

急落。ソリンドラは、昨年オバマも視察し太陽熱発電の希望の星といわれていたのですが、同じ理由で、2011年9月あえなく破たんしました。



このように、世の中でこれからのテーマとして注目されても、収益性を考えない理想買いだったり、すでに割高なレベルまで株価が高騰したりしていることが多いので、テーマ買いによる投資は、成果を上げにくいのです。

テーマで買う場合でも、そのテーマの事業が企業のビジネスのほとんどとなっている企業より、グローバル企業のなかで、その事業を1部門として持ち、しかも、対外競争力のある投資先に投資するのが妥当です。いわゆる事業の分散により、リスクを減らすことができるからです。また、その分野で大きい市場シェアを持ち、業績が安定している企業(たとえば、穀物メジャーのアーチャー・ダニエル)は、テーマ人気ははがれてもいずれ戻ってくる力があります。

## 第11回『退職金や金融資産をしっかりと運用するための新春セミナー』開催！

### -こうすればセカンドライフを豊かに過ごすことができる-

お金の心配をしなくて過ごせる人生を、新春の願いにされた方も多いことでしょう。ぜひ、その実現のために、このセミナーを活用してください。

混迷の世の中、本当のことを知ることが難しくなっています。特に資産運用は、情報があふれかえり、中でも利益を何とか取り込もうとしてリスクの高い商品を売り込む銀行や証券会社、FX会社、商品先物会社の宣伝・広告は激しくなっていて、利用者が本当に正しい資産運用の方法を学ぶ機会が限られています。

これからの人生は、国の制度や周囲に頼ることはできません。自分でしっかり判断して、人生を切り開いていく必要があります。資産運用もまさにその通り。このセミナーで、人生を安心して過ごすことができる「正しい資産運用法」を、ぜひ学んでください。きっとかけがいのない時間となることでしょう。

～参加無料 限定10名～

日時：2012年1月28日(土)15:00～17:00

場所：TKP東京駅丸の内会議室カンファレンス5(日比谷帝劇ビル地下1階)

<http://tkpteigeki.net/access/index.shtml>

(最寄り駅：有楽町・日比谷駅)

申し込みは、下記メールまたは電話にて「1月28日セミナー参加希望」として、お名前とご連絡先をお知らせください。

Eメール： [info@bfsc.jp](mailto:info@bfsc.jp)

Tel: 03-6721-8386

講師：尾藤 峰男 びとうファイナンシャルサービス代表取締役

講師プロフィール：

米国CFA協会認定証券アナリスト、CFPR、日本証券アナリスト協会検定会員、1級FP技能士、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーとして、個人の金融資産や退職金の運用助言・ライフプランニングサービスを提供する。2000年当社設立。グローバルな投資理論や外国株投資・国際分散投資への造詣が深い。日本経済新聞、週刊東洋経済、日経マネーなどへのコメント多数。日経CNBCにもたびたび出演。著書に「いまこそ始めよう 外国株投資入門」日本経済新聞出版社。投資助言・代理業として関東財務局登録。



◆このセミナーで「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」がわかる！◆

30年以上の経験と資産運用の頂点の資格を持つ、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザー尾藤 峰男だからこそ語ることのできる「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」をお話します。

日本の将来が不透明で、先行き閉塞感がつる中、老後や家族の将来はどうなるか、一人で考えあぐねていても、解決の糸口はなかなか見つかりません。

証券会社や銀行に相談しても、本当に役に立つ情報は提供してくれません。自分たちが売りたい商品のための情報しか話さないのです。

一度きりしかない人生を幸せに生きるために、資産運用で失敗はできません。金融機関から完全独立で、お客様の利益を最優先におくびとうファイナンシャルサービスだからこそお話できることがあります。土曜の午後のひと時を、「本当の資産運用とは」を学び、セカンドライフを豊かに過ごすために使ってみませんか。